

熊取町埋蔵文化財調査報告書第51集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXIII

平成21年3月

熊取町教育委員会

は し が き

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヶ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成20年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

熊取町教育委員会
教育長 西牧研壯

例　　言

1. 本書は、平成 20 年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川 淳を担当者として、平成 20 年 4 月 1 日に着手し、平成 21 年 3 月 31 日をもって終了した。
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録した。
3. 本書は、平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 12 月 29 日までの発掘調査成果を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第 10 版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 1990 年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、以下の調査補助員の参加を得た。
関井澄子、前田公子、森田享子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3節 周知の遺跡	3
第3章 調査成果の概要	
第1節 大久保E遺跡 07-1区の調査	5
第2節 朝代北遺跡 07-1区の調査	6
第3節 野田遺跡 08- 2区の調査	7
第4節 野田遺跡 08- 3区の調査	9
第5節 野田遺跡 08- 5区の調査	9
第6節 東円寺跡 08- 1区の調査	10
第7節 東円寺跡 08- 2区の調査	12
第8節 大谷池遺跡 08- 2区の調査	13
第9節 大谷池遺跡 08- 3区の調査	15
第10節 中家住宅周辺遺跡 08- 1区の調査	15
第11節 口無池遺跡 08- 1区の調査	17
第4章 まとめ	19

第1章 はじめに

平成20年度の文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は44件（平成20年12月末日）である。

本書では平成20年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査9件と、平成19年度第4四半期に実施した2件を合せた11件の発掘調査の成果について概要を報告する。

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
大久保E遺跡07-1区	大久保中1丁目127-19	中谷美千代	147.85m ²	平成20年1月21日
朝代北遺跡07-1区	朝代西3丁目770の一部	白川徹典・白川静香	228.96m ²	平成20年3月11日
野田遺跡08-2区	野田1丁目2014-2	小川豊司	168.82m ²	平成20年6月3日
野田遺跡08-3区	紺屋165-1の一部	森山健一	228.69m ²	平成20年6月13日
東円寺跡08-1区	野田2丁目3-8	平岡隆行	254.27m ²	平成20年7月14日
大谷池遺跡08-2区	桜が丘2丁目19-4、19-5	村上典夫	321.55m ²	平成20年7月15日
中家住宅周辺遺跡08-1区	五門西2丁目41-1	丸山竜太	140.85m ²	平成20年7月18日
口無池遺跡08-1区	緑屋1丁目118-1、119の各一部	中林久弥	241.08m ²	平成20年8月4日
大谷池遺跡08-3区	桜が丘2丁目18番14号	岸田幸枝	163.01m ²	平成20年8月5日
野田遺跡08-5区	野田1丁目1994-3、1994-5	宮内茂次	231.81m ²	平成20年9月11日
東円寺跡08-2区	野田2丁目1088-3、1088-4、220 74、2207-5	藤原昭仁	283.54m ²	平成20年12月1日

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉州佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.23km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では

狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉州佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができる。

第2節 歴史的環境

遺跡数は平成20年12月現在で43ヶ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和61年から平成2年の間に発掘調査を実施し、畿内第V様式を示す土器等を検出して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を作り遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝が検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因る集落跡の可能性がある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要な文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要な文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3m²程度の1箇所のトレンチ内から5,500枚の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

第3節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1 来迎寺遺跡	集落跡	鎌倉	宅地	丘陵地	3 100m ²	15~16世紀の陶磁器・土器等検出
2 池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62 300m ²	
3 大富遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	5 000m ²	
4 東円寺跡	寺院跡	平安~江戸	宅地	平地	48 000m ²	瓦・土器多数出土 寺院の形態は不明
5 戒ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61 800m ²	
6 成合寺遺跡	墓地	室町	住宅地	丘陵地	69 000m ²	14世紀代の600基以上の上埴輪等検出
7 高藏寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34 800m ²	土器・廻切等の構造を確認する
8 雨城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45 300m ²	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
9 五門城跡	散布地	古墳~江戸	宅地	丘陵	2 300m ²	土器碎片等が検出される
10 五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1 900m ²	現在消滅
11 五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1 500m ²	現在消滅
12 大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	18 400m ²	享徳四年(1445)窯の五輪塔施輪等出土
13 久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86 300m ²	飛鳥原の構から須恵器・土器等多い
14 山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	6 800m ²	
15 大谷池遺跡	散布地	古墳~江戸	池	平地	51 400m ²	
16 祭孔御旅所跡	祭孔跡	室町	山林	丘陵	6 300m ²	五門・辯屋共同墓地
17 正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	55 000m ²	
18 小坂内遺跡	寺跡	江戸	道路	丘陵	7 000m ²	毘沙門堂跡 現在消滅
19 金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5 100m ²	大森神社神宮寺
20 鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72 600m ²	
21 蔽ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵地	32 000m ²	
22 花成寺跡	寺跡	室町	山林	丘陵	28 000m ²	
23 降井家屋敷跡	屋敷跡	室町~江戸	宅地	平地	12 000m ²	風致地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24 大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8 100m ²	
25 下高田遺跡	糸川跡	室町	田	平地	57 000m ²	
26 大久保B遺跡	集落跡	弥生~江戸	宅地	平地	47 800m ²	弥生末~古墳初期の遺物
27 甜屋遺跡	散布地	古墳~江戸	宅地	平地	22 400m ²	奈良~平安朝の河川跡検出
28 白地谷遺跡	散布地	室町~江戸	田	谷	129 600m ²	
29 大久保C遺跡	散布地	室町~江戸	宅地	平地	4 500m ²	
30 千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1 000m ²	天正年間(1573~92)の難賀衆徒の築跡
31 口無池遺跡	散布地	平安~江戸	宅地	平地	11 200m ²	平安末~鎌倉初期の遺構・遺物
32 大久保D遺跡	散布地	鎌倉~江戸	宅地	平地	9 200m ²	
33 大津遺跡	散布地	鎌倉~江戸	田	平地	4 900m ²	13~14世紀の瓦器等検出
34 久保A遺跡	散布地	鎌倉~江戸	宅地	平地	4 400m ²	建物跡 8~14世紀の十器
35 久保E遺跡	集落跡	弥生~江戸	宅地	平地	2 900m ²	弥生末~古墳初期の遺物多数
36 久保B遺跡	集落跡	鎌倉~江戸	宅地	平地	5 000m ²	13~14世紀の瓦器等検出
37 中家住宅辺遺跡	集落跡	室町~江戸	宅地	平地	21 300m ²	近世の陶磁器多数
38 朝代北遺跡	散布地	鎌倉~室町	宅地	平地	60 000m ²	13~14世紀の瓦器等検出
39 七山東遺跡	散布地	奈良~室町	田	平地	80 000m ²	古代須恵器・土器・瓦器等検出
40 小坂内西道跡	集落跡	奈良~室町	宅地	平地	3 600m ²	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41 久保F遺跡	集落跡	洪牛~室町	宅地	平地	1 436m ²	石獅・平安塙の建物等検出
42 野山遺跡	集落跡	鎌倉~江戸	宅地	平地	310 000m ²	礎文石器・古代~近世の集落
43 小坂内中道跡	集落跡	奈良~室町	宅地	平地	3 500m ²	中世の集落

熊取町遺跡分布図



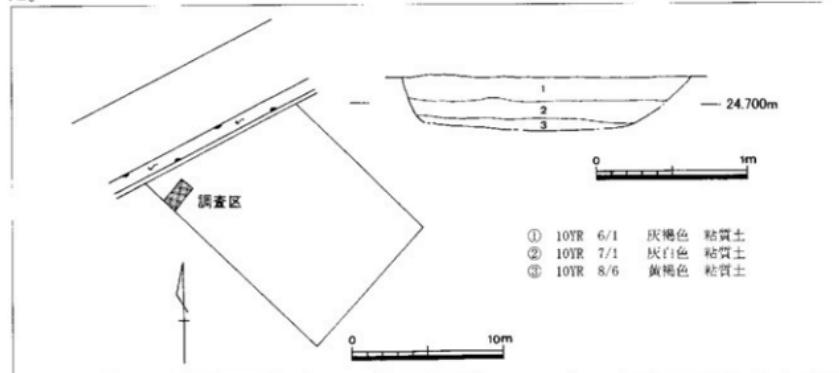
第3章 調査成果の概要

第1節 大久保E遺跡07-1区の調査



大久保E遺跡について

大久保E遺跡は平成元年にJR熊取駅前土地区画整備事業に伴って発見された遺跡で、主に調査区内の流路状の遺構から古墳時代初頭期の甕、壺、高杯、器台、製塩土器、蜻蛉などの土師器片が大量に検出されている(90-1区)。残念ながら同時代の住居跡などは今のところ一切検出されておらず、古墳時代の営みについてはよくわかっていない。甕は広く煮炊きに使用されたと考えられ、ほぼ全ての個体の外面に黒い炭化物や煤が付着していた。



調査地 大久保中1丁目127-19

調査期間 平成20年1月21日

位置と環境

調査地点は大久保E遺跡の中央南端に所在し、平成元年の90-1区の東側に隣接してい

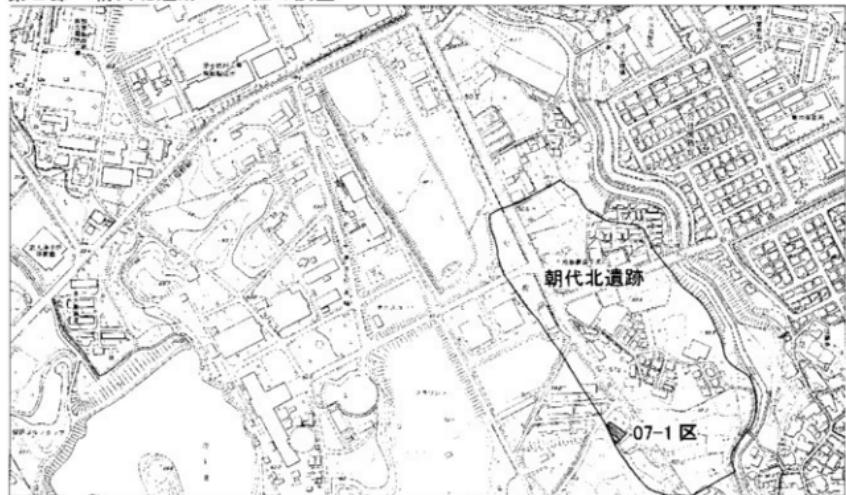
る。調査地点の南側には比較的古くからの住宅や商店が立ち並んでおり、平坦な地形を呈していることから、近年の改変を受けていない地域と想定される。

調査の内容と結果

2か所の調査区を設定して建築物の基礎掘削にかかる深さの範囲内のみを機械掘削し、人力精査を行った。両調査区とも現地表面より-0.2m付近までは、近年の宅地造成にかかる客上が存在し、以下には中世頃の土層が確認できるなど、同様の土層を呈した。掘削した範囲内には埋蔵文化財は一切検出しなかった。

-0.4m以下は未確認のために、大久保E遺跡の古墳時代初頭頃の土層や埋蔵文化財が存在している可能性は存在している。

第2節 朝代北遺跡07-1区の調査



朝代北遺跡について

朝代北遺跡は平成8年に発見された遺跡で、今のところ遺構などは確認されていないが、主に中世の包含層が分布する遺跡である。付近は丘陵と谷が対をなす地形を呈しており、近年大学の研究施設や工業施設が開かれるまでは、谷状の場所を埋め立てて畠地に利用されるなどしていた。

調査地 朝代西3丁目770の一部

調査期間 平成20年3月11日

位置と環境

朝代北遺跡の西南端部に位置し、主要地方道泉佐野打田線にほぼ接している。この場所の西側はなだらかな丘陵地になっており、調査地点も傾斜地上に立地している。

調査の内容と結果

1カ所の調査区を設定して機械掘削による調査を実施した。現地表面下-0.2mまでは近年に至る耕作土が存在し、以下に盛土を行ったことを示す層が幾重にも存在する。盛土

は近世に開墾する時に行われたものと推定され、埋蔵文化財と考えられる所産は検出しなかつた。



第3節 野田遺跡 08-2区の調査

野田遺跡について



野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約 260,000 m²にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の 45,000 m²程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文

化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、早くより寺院跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、その範囲が飛躍的に拡大していったものであった。野田地域全体における調査では、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相となってきたため、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、より広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割した。

野田遺跡の範囲内の町立中央小学校で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田集落内の調査で奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測される。また調査の成果から、集落は中世初期頃に非常に繁栄していたことも推測される。集落は室町時代の中期頃より減じていったことも窺われ、多くが農地に変わっていたものと考えられる。

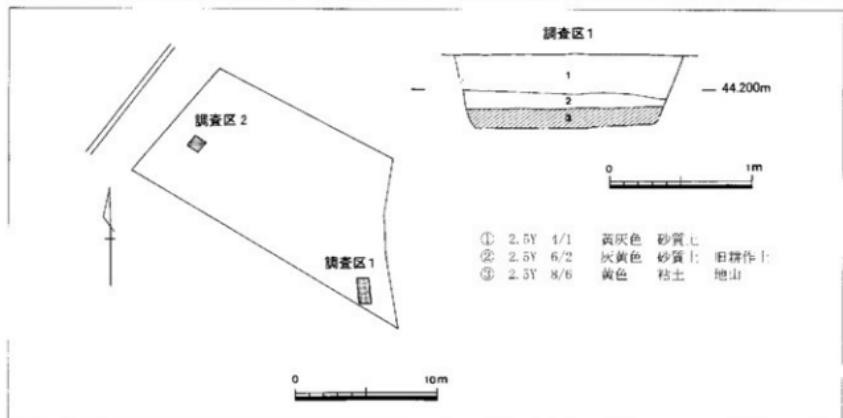
野田遺跡 08-2区の調査

調査地 野田3丁目1-5

調査期間 平成20年6月3日

位置と環境

調査地点は広大な野田遺跡の東端に位置し、この付近はかつて野田に存在した寺院のすぐ東側に当たり、この20年間ほどの調査の蓄積によって、比較的広範囲に集落が営まれていたことがわかつてきている地域である。調査地点の西側には南北方向に町道野田大原線が通っており、この道路の両側に14世紀前後の遺物を伴う集落が検出されている。88-1区、88-6区の調査では縦横に水路を配した構造の掘立柱建物群を検出したことに始まり、92-1区ではこの寺院固有とされる蓮華文軒丸瓦を礎石に転用した掘立柱建物が検出された。共伴する瓦器椀とからして14世紀の中頃には寺院は何らかの理由によって衰退もしくは廃絶し、その後もなお調査地点周辺に集落が営まれ、15世紀以降の遺物がほとんど見られないことからすると、間もなく集落も廃絶されたのだろう。現在もこの調査地点周辺には比較的古くからのものと考えられる集落が営まれているが、それらが果たして中世の頃から代々と続くも



のなのかは不明である。調査地点は検出された中世集落の北側によそ80m程離れており、この地点までかつての中世集落が広がっていたかを確認できるかが最大の焦点であった。

調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。黄褐色粘土の地山まで約0.5mほど掘削したが、近年まで行われていた耕作上層がこの地山面の上に存在しており、地山面は耕作前に削り取られていることがわかった。中世や近世の土層は一切存在せず、埋蔵文化財も検出しなかった。

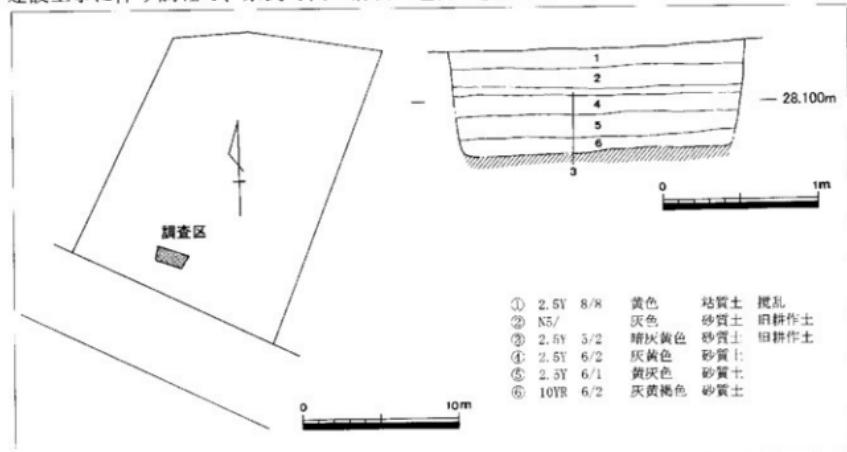
第4節 野田遺跡08-3区の調査

調査地 紺屋165-1の一部

調査期間 平成20年6月13日

位置と環境

調査地点は野田遺跡の西端で、現在の熊取町紺屋の集落に面している。調査地点の南側には旧中林綿布工場を保存再生した熊取交流センター煉瓦館の広大な敷地が広がっている。この付近では平成7年の道路拡幅工事に伴う調査と、平成15年の熊取交流センター建設工事に伴う調査で、奈良時代の溝状の遺構を検出するなどしている。



調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。現地表面から-0.3mまでは取り壊した民家跡を造成した際に敷かれたと思われる粘質土①があり、以下に層厚0.2m程度の昭和まで行われていたと考えられる耕作土②③があり、以下に中世と古代頃の層④⑤⑥が0.4m程度見られる。これらの層から遺物は検出していない。またこの調査の最下層として黄褐色粘質土の地山を地表面下0.8m以下に検出した。

第5節 野田遺跡08-5区の調査

調査地 野田1丁目1994-3、1994-5

調査期間 平成20年9月11日

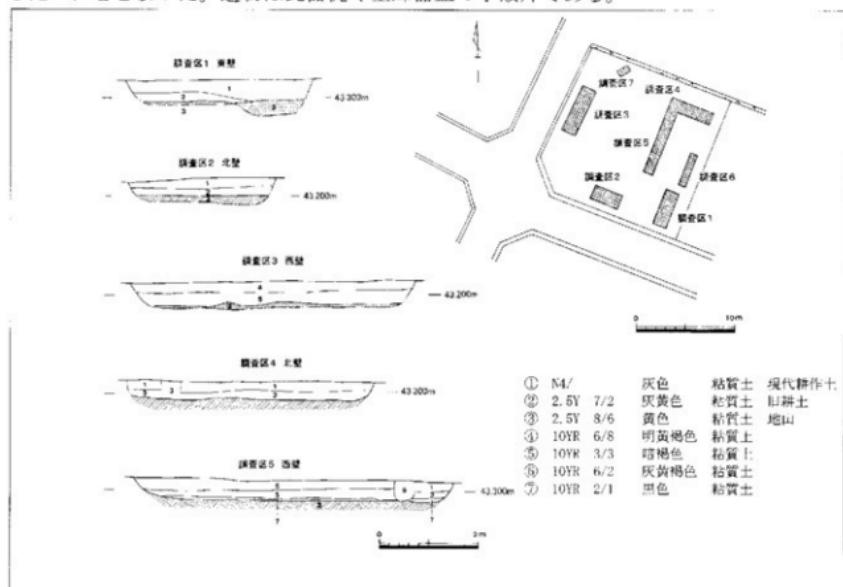
位置と環境

調査地点は野田遺跡の東端に位置し、先に記した08-2区から町道野田大原線に沿って

南へ約80mの地点で、現在もこの調査地点周辺には比較的古くからのものと考えられる集落が営まれている。西側に存在する熊取町立中央小学校付近にあったとされる寺院のすぐ東側に当たり、この20年間ほどの調査の蓄積によって、中世期には比較的広範囲に集落が営まれていたことがわかってきており、町道野田大原線の両側には14世紀前後の遺物を伴う集落が検出されており、88-1区、88-6区の調査で、縦横に水路を配した構造の掘立柱建物群が検出したことに始まり、92-1区ではこの寺院固有とされる蓮華文軒丸瓦を礎石に転用した掘立柱建物が検出されている。このことと共に瓦器碗からすると、14世紀の中頃には寺院は何らかの理由によって衰退もしくは廃絶し、その後もなお調査地点周辺に集落が営まれ、15世紀以降の遺物がほとんど見られなくなることから、15世紀には集落は一時廃絶してしまったとも考えられる。

調査の内容と結果

調査は隣接地での発掘本調査との兼ね合いから、合計7箇所調査区を設定して機械掘削によって実施したが、概ね現地表面から-0.4m程度掘削すると黄褐色粘質土の地山を検出する。この地山面上には隣接地である野田遺跡07-5区で検出された帆立柱建物群や溝などの遺構は一切検出されず、地山の上層に厚さ0.2m程度の中世遺物を含む包含層を検出したのにとどまった。遺物は瓦器碗や土師器皿の小破片である。



第6節 東円寺跡08-1区の調査

東円寺について

東円寺（東耀寺）は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀に著述されたとされる『慈城峯中記』に「野田山…」の記述がされる寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したもの明治維新の廢仏毀釈で完全に法灯が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された『先代考拠略』によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになつたという。

現在の遺跡としての東円寺跡の範囲内においては、これまで多くの発掘調査が行われて瓦器椀を中心とする中世の遺物と掘立柱建物跡が検出されているが、肝心の寺院の推定中



心地では本調査・確認調査が行われていない。周辺地の調査で出土した複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦のうち残存状態の良いものは熊取町指定文化財に指定されている。

また発掘調査の成果から、熊取町野田にあったこの寺院は創建後数十年経た鎌倉時代に火災で大方の建物群が焼亡した可能性がある。出土する中世土器群の比較観察からすれば、火災が起きたのは13世紀代だったのではないかと思われるが、その火災の原因等については今のところ不明のままである。また創建期の寺院が焼亡した後は、規模を縮小して復興したものと考えられるが、寺域の大部分は農地に作り変えられたらしいことがわかっている。引き続き周辺に集落が営まれたようで、尾上式瓦器椀編年によるIV期の所産が多く検出されている。15世紀以降の遺物は極端に少なくなるが、これは寺院の繁栄や集落の規模などの変遷に比例しているものと思われる。

東円寺跡 08-1 区の調査

調査地 野田 2 丁目 3-8

調査期間 平成 20 年 7 月 14 日

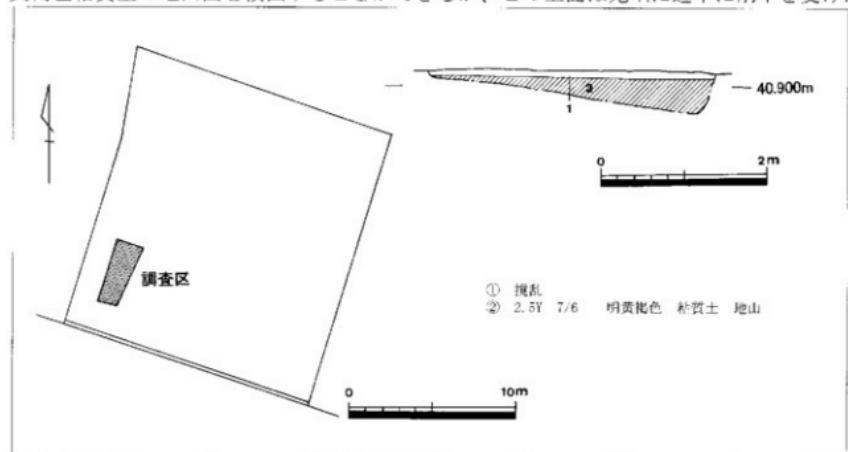
位置と環境

野田にあったとされる旧寺院の最南端部に位置し、参拝する際の表門が存在していたものと考えられる小字名「大門」に近い地点である。現在この南には国道 170 号が設けられているが、この道路は寺院があった時代よりももっと後代に開かれた道と考えられ、かつて

は今回の08-1区と次に記す08-2区の前を通る道路が、熊取の野田を通る唯一の幹線道路であったと考えられ、旧寺院はこの道路の北側に展開するよう存在していたと考えられる。この道路から現在の熊取町役場方向には緩やかな上り傾斜になっており、旧寺院はその丘陵腹を利用して造られていたと見られ、伽藍があったのは熊取町役場の南側にある駐車場や、その隣の中央小学校であったと思われるが、寺院については正確なことはわかつていない。今回の08-1区は寺院の南端付近に位置し、寺院の伽藍等があった場所ではなく、旧寺院への進入路などがあったものと考えられる。現在付近は宅地化が進んでいるが、その住宅の北側には田畠が多く残されている。

調査の内容と結果

調査は2か所の調査区を設定して機械掘削によって実施した。現地表面より-0.1mで黄褐色粘質上の地山面を検出することができるが、この上面は完全に近年に削平を受けた



痕跡があり、地山面の上には最近敷設したと考えられるバラスのみが見られることからも、今回調査を実施する直前に、調査地点は上の漉き取りを実施して、住宅建設用にバラスを敷いたと思われる。地山面を精査したが、柱跡や溝などの遺構は一切検出されず、また調査で土器などの遺物は出土しなかった。

第7節 東円寺跡08-2区の調査

調査地 野田2丁目1088-3、1088-4、2207-4、2207-5

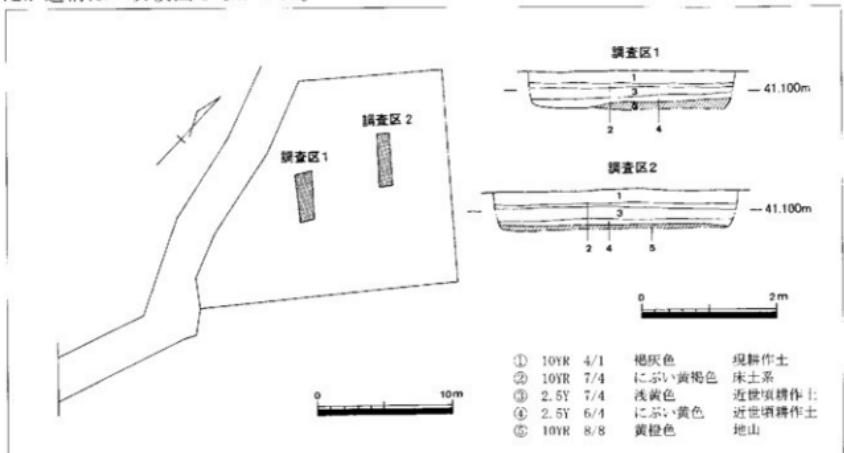
調査期間 平成20年12月1日

位置と環境

先に記した08-1区のすぐ西側に位置し、東円寺跡の最南端の小字名が「大門」の場所で、野田にあったとされる旧寺院を参拝する際の表門が存在していたものと考えられている地点である。近隣にはこの数十年ほどで多くの住宅が建てられたが、熊取町役場に向かっては多くの田畠が残されている。この付近では確認調査を実施した例が少なく、野田にあったとされる寺院の遺構はいまだに発見されていない。

調査の内容と結果

調査は2か所の調査区を設定して機械掘削を行った。二つの調査区とも全く同様の様相を呈し、現地表面下-0.5m付近に地山の黄褐色粘土層①が存在し、その直上には近世頃の耕作に関する層が主に2層③④営まれていることが確認される。瓦器などの小破片が出土したが遺構は一切検出しなかった。



第8節 大谷池遺跡 08-2区の調査

大谷池遺跡について



大谷池遺跡は1970年代後半から1980年代にかけて実施された分布調査の際に、池岸で須恵器の破片が採取されたといわれるなど、須恵器を生産した窯跡が発見される可能性を含む遺跡である。熊取町で最大級の範囲を有する大久保B遺跡が存在する駅前から、大阪外環状線に沿って東の方向へ、かつて比較的規模の大きな寺院があったとされる野田地区

へ向かう途中の北側の丘陵上には「大谷池」という面積23,000m²程の池が存在している。大谷池は町内の多くの池と同様、近世には農業用溜池として利用された池で、西側には現在も急峻な堤が残されている。池の西側以外の周辺は宅地化が進んで、池岸まで住宅が迫っている。池の西側同様に南側の下城に水田が営まれていることから、元来は南側も大きな堤状を呈していたものと考えられる。また、大谷池は現在両端が広がった分銅のような形状をしているが、当初は横方向に長い長方形のような形状だった可能性がある。北側と南側の住宅地の造成で、池を埋め立てて池の形状を変えたものと考えられる。しかしながら個人住宅の建築に伴って実施した近年の確認調査においては、古墳時代ばかりか中世の埋蔵文化財は一切出土したことがなく、池の築堤に伴うと考えられる層から近世陶磁器片が少量検出された例がわずかにある程度で、その他の調査では宅地造成の大幅な盛土が検出されているのみである。

大谷池遺跡08-2区の調査

調査地 桜が丘2丁目19-4、19-5

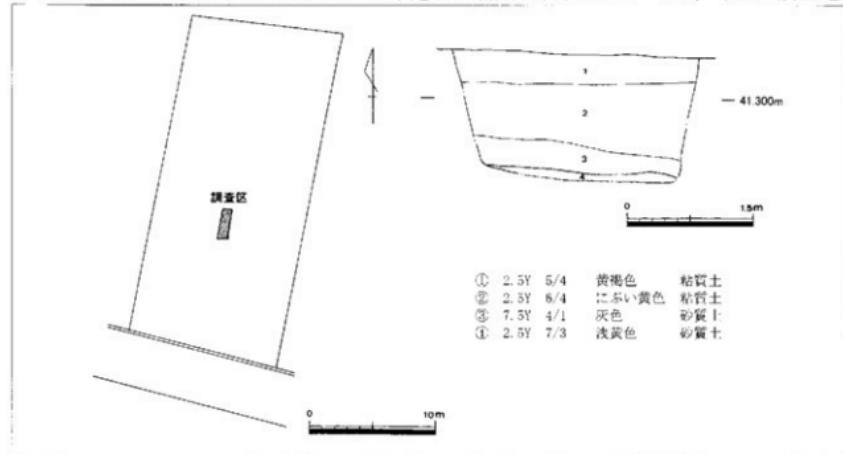
調査期間 平成20年7月15日

位置と環境

調査地点は遺跡の南西端、大谷池の南岸に位置する。申請地は現在大谷池に南側から張り出した半島状の地点に営まれている桜が丘の住宅地の一角に所在し、この付近が大谷池の池岸に大幅な盛土を行って拡張造成された場所であると推測される。この付近では近年個人住宅の建替えが多く行われ、平成12年度の大谷池遺跡00-1区や00-2区の調査では、既に埋め立てられてしまった大谷池の旧堤防、もしくは旧来存在した丘陵地の地層が検出されている。昨年度は07-1区の調査を実施したが、宅地造成の際の盛土を検出するにとどまった。

調査の内容と結果

機械掘削による調査を実施した。地表面下-1.5m程掘削しても、旧來の自然地層には届かず、近年住宅地を造成する際に埋め立てられた盛土①②③④を検出するにとどまった。この地域の埋蔵文化財調査で期待される須恵器の窯跡の発見については、今回の調査地点



においても何ら手がかりを得られなかつた。

第9節 大谷池遺跡08-3区の調査

調査地 桜が丘2丁目18番14号

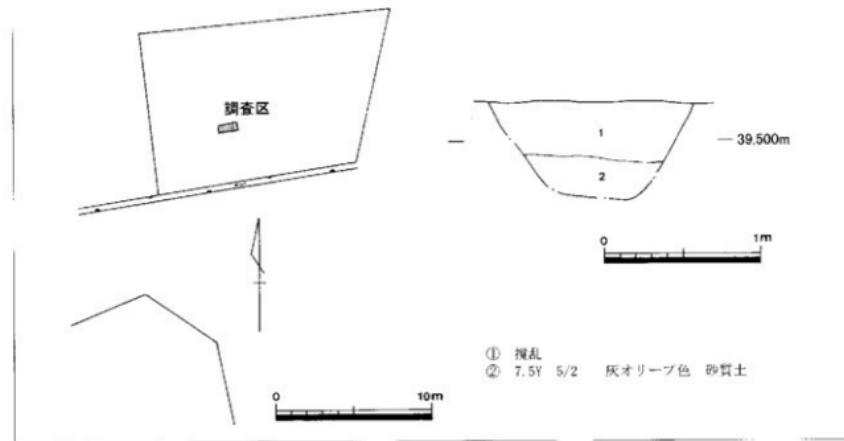
調査期間 平成20年8月5日

位置と環境

調査地点は大谷池の南岸で遺跡の南西端に位置し、池に南側から張り出した半島状の地点に営まれている。先にも記した通り付近では個人住宅の建替えが多く行われ、昨年度は今回の場所のおよそ25mほど西側で07-1区の調査を実施したが、宅地造成の際の盛土を検出するに終わっている。

調査の内容と結果

調査は人力掘削によって実施した。建築物の基礎掘削深度を超すGL下-0.6m程掘削したが、旧来の自然地層には届かず、近年住宅地を造成する際に埋め立てられた盛土を検出するだけにとどまった。



第10節 中家住宅周辺遺跡08-1区の調査

中家住宅周辺遺跡について

中家住宅周辺遺跡は平成8年11月熊取町五門地内における水道管設置工事の際に、近世の陶磁器破片が30数点発見されることにより設定された集落遺跡で、重要文化財中家住宅の周辺に分布していると考えられる中世の遺構と遺物を主な対象とするものである。重要文化財中家住宅では主に公共事業に伴って確認調査・本調査を数度実施し、近世を中心とする埋蔵文化財を多数検出している。微量の瓦器細片を除けば、大部分が近世の陶磁器と大量の瓦片であり、中家住宅の年代を推測する好材料である。現存する文献資料などからは、中氏は中世以来熊取地域の有力な一族であったことが窺われ、近世に至って岸和田藩下で筆頭庄屋を勤めるなど、熊取最大の旧家であることを疑う余地はない。



現在の重要文化財中家住宅は主屋と表門、唐門が重要文化財の指定を受けており、主屋は入母屋造り、瓦葺き、妻入りで、周囲に本瓦葺きの庭をめぐらせる。独立性の強い土間は近畿地方でも最大規模のもので、寺院の庫裏や武家の台所を想わせる。主屋は江戸時代初期の建築と推定されるが、土間に大きく張り出す架構形式のダイドコロと、踏み込みのあるナンドとザシキ周りの喰い違い三間間取り、柱の省略の多い居室部などは中世の雰囲気を残す。

残された江戸期の絵図面から、現在の重要文化財中家住宅は江戸時代の最盛期の屋敷地に比して半分程の面積に狭まったことが推測され、また屋敷地の周囲には中家に所縁のある人々の集落があったのではないかと推測される。これを裏付けるように中家住宅周辺遺跡から出土する埋蔵文化財には近世の陶磁器類と瓦片が最も多く、中家住宅敷地内から出土する遺物と極めて類似性が強い。

現在重要文化財中家住宅の周辺は一般的な民家や商店が建ち並んでいる。中氏が熊取を離れた後は、屋敷地には郵便局や郷土資料館、倉庫、公園などが設置されたため、調査をする以前に遺構面が破壊された場所が多いので、中家住宅の歴史を考古学から考究する際には、比較的遺構面の破壊が軽微な中家住宅の縁辺での発掘調査の成果に期待する部分も少なくない。中氏にまつわる幾つかの伝承そのものが熊取の歴史そのもののように語り継がれているが、今後発掘調査の成果という客観的な資料によって、熊取の歴史に迫ることもできるだろう。

中家住宅周辺遺跡 08-1区の調査

調査地 五門西2丁目41-1

調査期間 平成20年7月18日

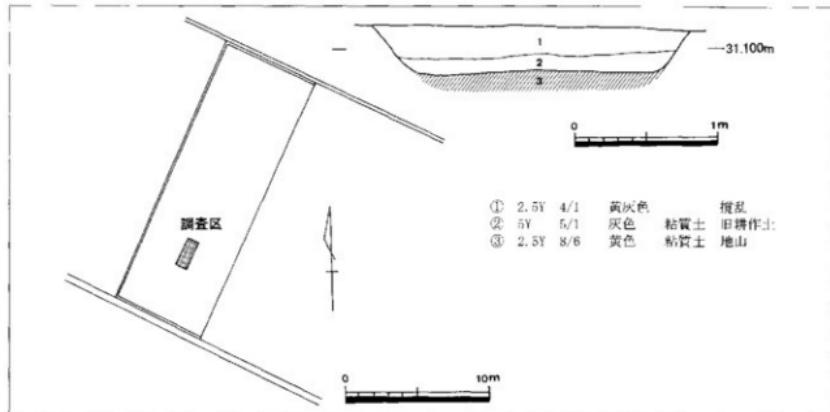
位置と環境

調査地点は、中家住宅周辺遺跡の中央部東寄りに位置し、申請地のすぐ北側に国道170号が東西方向に走っている。中家住宅周辺遺跡に指定している範囲は、重要文化財中家住宅を中心として広がる住宅地であり、この付近は起伏の少ない概ね平坦な地形を呈している。今回の申請地に対して、国道170号を隔てた北側一帯は、これまで重要文化財中家住

宅に関連があるものと推定される近世の遺構や遺物が豊富に出土しており、申請地のある国道南側にも近世集落の遺構と遺物が埋蔵されているものと考えられる。

調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。建築物の基礎掘削に合わせて地表面下-0.4mまで掘削し、現在の宅地を造成する際に他から運ばれてきた土層①②を検出するに止まった。土器や遺構などの検出は一切見られなかった。この層以下は今回の個人住宅の建設工事の掘削深度の対象外となり、現地で開発者と協議の上で、それ以上掘削調査を行わなかつたため不明のままである。



第11節 口無池遺跡 08-1区の調査

口無池遺跡について



口無池はこの08-1区の北側に存在する大きな池で、16世紀初頭頃に造られた溜池と考えられる。この池の南側の紺屋の集落一帯の地下には、中世の遺物を含む十層が広く分布しており、それによって遺跡の存在が想定されているが、これまでの数少ない調査で集落などの明確な遺構を検出した例がなく、詳しいことはわかっていない。平成8年度に下水道の工事立会中に、幅の狭い溝複数と瓦質の羽釜などの中世後期の遺物を検出したことがあり、それらは15世紀以降にこの地が徐々に開墾され、集落として開かれたことを窺わせる資料と考えられる。

調査地 紺屋1丁目118-1、119の各一部

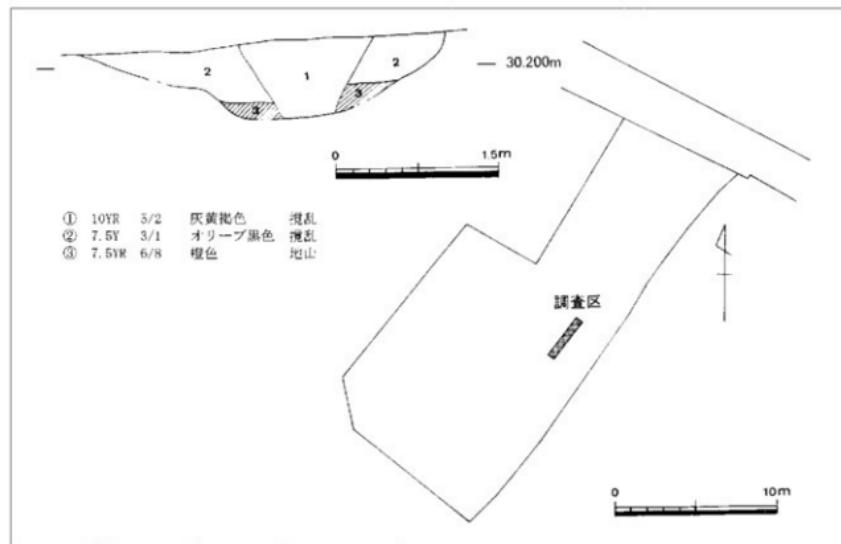
調査期間 平成20年8月4日

位置と環境

調査地点は口無池遺跡の東端付近に位置し、大久保野田七山線の南側に面している個人住宅である。周辺は高低差の少ない平坦な地形を示し、敷地の広い個人住宅が立ち並んでいる。付近では平成15年8月に個人住宅の建築に伴って調査を実施しているが、この際埋蔵文化財は一切検出していない。

調査の内容と結果

調査は1か所の調査区を設定して機械掘削によって実施した。現地表面から-0.6m程掘削したが、かつての造成の際の盛土を検出しただけで、現地表面下-0.4m付近に黄褐色粘質土の地山を検出する。遺構遺物は一切検出しなかった。



第4章 まとめ

大久保丘遺跡

今回の07-1区では中世期の地層を確認できたが、個人住宅の建設にかかる掘削深度の範囲内においては、古墳時代初頭の地層などを検出することはできなかった。07-1地点の地下には古墳時代などの地層が存在している可能性があり、平成元年と2年に本調査を実施した地点のすぐ東側に面していることも合わせて、将来の二次的な開発には十分注意していく必要がある。

朝代北遺跡

朝代の集落とは道路向かいに当たる丘陵裾に位置しており、この付近のこれまでの調査と同様に包含層など明確な埋蔵文化財は検出されなかつたが、個人住宅建設にかかる範囲内の調査であるため、中世以前の埋蔵文化財が存在する可能性は残されているので、将来的には注意を要する。

野田遺跡

08-2区は前年掘立柱建物群と大量の瓦器を検出した07-5区の調査地点の北側の丘陵腹に位置しており、07-5区に連続する中世集落跡の検出が期待されたが、埋蔵文化財は一切存在しなかつた。07-5区はさらに88-3区、88-5区、それに92-1区らとともに、東円寺跡の東に存在した集落の一角を形成しているが、08-2区が位置する付近にまでは集落が営まれていなかつたと考えられる。

08-3区はその真南側に存在していたレンガ造りの大きな工場の防空壕が造られた経緯があるために、現場の大部分が既に大きく搅乱を受けてしまつており、旧状を残すと思われる部分を掘削して調査を実施したが、埋蔵文化財は検出されなかつた。この08-3区の付近は野田遺跡の西南端に位置し、現在の紺屋に面する場所にある。この場所の野田遺跡ではかつて96-3区や03-9区の際に、奈良時代頃の溝と須恵器を検出しており、中世集落より古い遺構が存在する可能性の高い地域なので今後も注意を要する。

08-5区は先に記したように中世の集落跡と瓦器などを大量に出土した07-5区のすぐ北側に接している。今回の調査では多くの調査区を設定して調査を進めたが、07-5区とつながるような集落の遺構は無く、わずかな中世遺物を検出するにとどまつた。従来の調査で知られるようになった中世の建物群は周囲に広域的に分布しているのではなく、一定の場所に偏在していたことが考えられる。

東円寺跡

小字名「大門下」が残る08-1区ではわずかに包含層の痕跡を検出できたが、寺院に直接つながるような遺構を検出することはできなかつた。

08-2区は寺院へ入る門などが存在した場所であったことを示す小字名「大門」の地点に位置したので、寺院関連の遺構が検出される期待があつたが、今回の調査で遺構や包含層は一切確認できなかつた。寺院の主要な伽藍等が営まれた場所でないことが確認できた意義は大きい。

大谷池遺跡

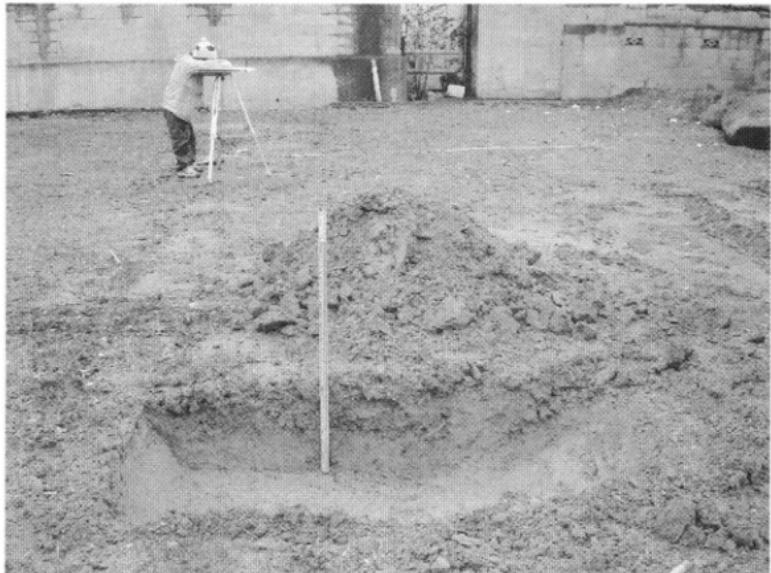
大谷池の南岸ではこれまで、個人住宅の建替えに伴う調査を数度実施しており、過去の堤防の痕跡を検出するなどしていた。今回の調査地点は、堤防の存在が推定される位置よりもさらに池の中央寄りに張り出した半島状の住宅地であるが、調査の結果、自然の地山は検出できず、大幅な盛土だけが見られた。大谷池の南西側に広がる住宅地を造成した際、堤体を埋め立て、さらに池側に大幅な盛土の造成を行って住宅地を広く確保したものと考えられる。町内最大級の溜池である大谷池の築造年代と、かつて池岸で採取されたという須恵器の性格と、そこから推測されている窯の存在の有無の確認については、今後も引き続き調査を重ねて探っていきたい。

中家住宅周辺遺跡

昨年度の07-1区に引き続きその東隣で個人住宅にかかる確認調査を実施したが、結果は07-1区と全く同様で埋蔵文化財は一切検出しなかった。江戸時代に岸和田藩の七人庄屋の筆頭であった中氏の屋敷の表門のある南正面側には、中氏に関連する施設・建物群の存在が想定されていたが、今回の調査では埋蔵文化財を検出することができなかった。この場所は近年まで水田が営まれていたことを写真資料から確認することができ、戦後より宅地化され、現在の地表面の高さまで造成されたことが知られたが、今回の調査はそれを裏付けるものであった。屋敷の表門のある正面やや東寄りに当る今回の調査地点は、江戸期より水田が営まれるなどして、建物や付属の施設が存在していなかった可能性が高いと考えられる。

口無池遺跡

今回は個人住宅の建設にかかる調査で規模が小さかったために、造成時の盛土しか検出することができなかった。従来の調査でも中世の埋蔵文化財を検出したのは現地表面下-1.0m付近で、この付近が主に近世以降に大幅な盛土を行って耕作地にされていったことが推定される。



大久保E遺跡07-1区 調査区全景



大久保E遺跡07-1区 調査区壁面



朝代北遺跡 07-1区 調査区全景



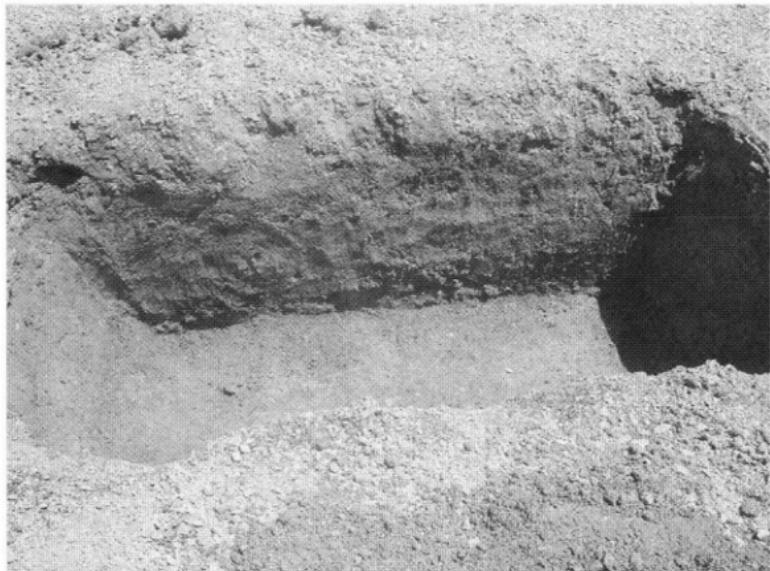
朝代北遺跡 07-1区 調査区壁面



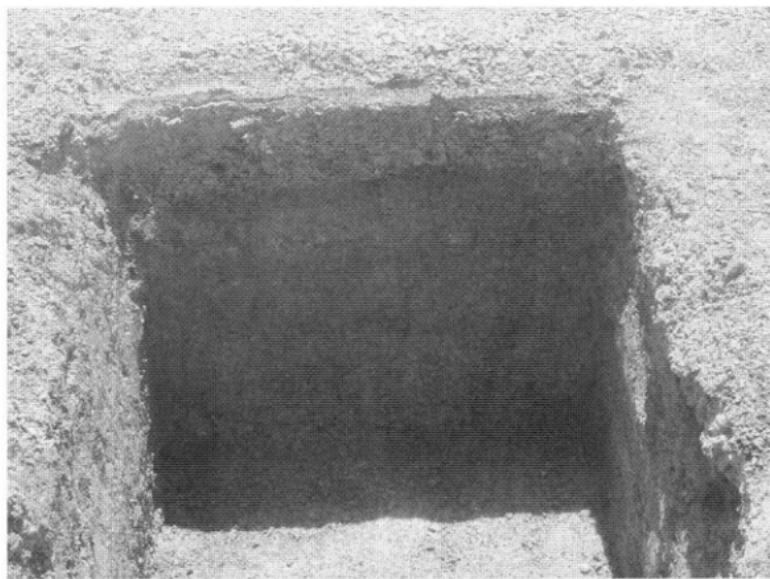
野田遺跡 08-2区 調査区全景



野田遺跡 08-2区 調査区壁面



野田遺跡 08-3 区 調査区全景



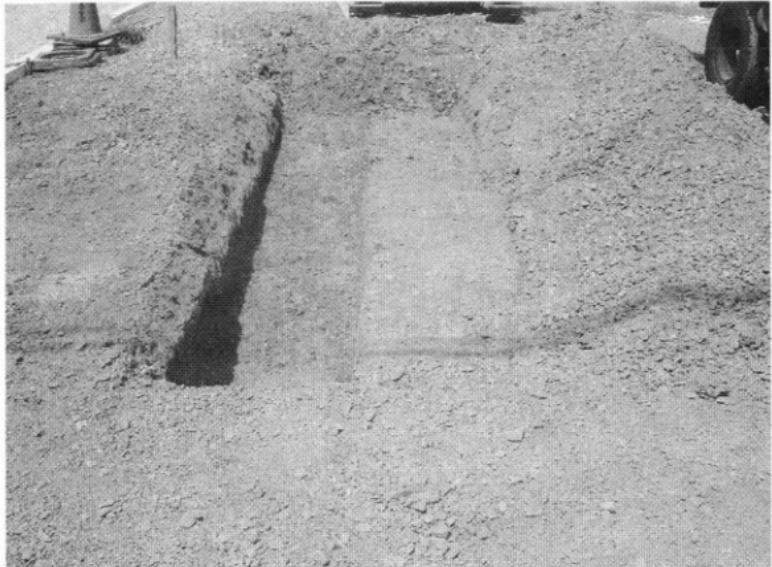
野田遺跡 08-3 区 調査区壁面



野田遺跡 08-5 区 調査区全景



野田遺跡 08-5 区 調査区壁面



東円寺跡 08-1区 調査区全景



東円寺跡 08-1区 調査区壁面



野田遺跡 08-5 区 調査区全景



野田遺跡 08-5 区 調査区壁面



大谷池遺跡 08-2 区 調査区全景



大谷池遺跡 08-3 区 調査区壁面



大谷池遺跡 08-3区 調査区全景



大谷池遺跡 08-3区 調査区壁面



中家住宅周辺遺跡 08-1区 調査区全景



中家住宅周辺遺跡 08-1区 調査区壁面



口無池遺跡 08-1区 調査区全景



口無池遺跡 08-1区 調査区壁面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはつくつちょうさがいようほうこくしよ							
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書							
卷次	X X III							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第51集							
編著者名	前川淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号							
発行年月日	西暦 2009年3月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
おおにくじゆいざき 大久保Ⅱ遺跡 07-1区	おおくぼじゅせんじゆ 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町大久保	27361	35	34° 24' 04"	135°20' 50"	20080121	3.0	個人専用 住宅建設
あかしきみやけ 朝代北遺跡 07-1区	あかしきみやけ 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町朝代	27361	38	34° 23' 00"	135°21' 07"	20080311	3.0	個人専用 住宅建設
のだいせき 野田遺跡 08-2区	のだいせき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町野田	27361	42	34° 23' 49"	135°21' 41"	20080603	4.0	個人専用 住宅建設
のだいせき 野田遺跡 08-3区	のだいせき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町船屋	27361	42	34° 23' 55"	135°21' 10"	20080613	3.0	個人専用 住宅建設
のだいせき 野田遺跡 08-5区	のだいせき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町野田	27361	42	34° 23' 45"	135°21' 39"	20080911	32.8	個人専用 住宅建設
おおにしねいざき 大谷池遺跡 08-2区	おおにしねいざき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町桜が丘	27361	15	34° 24' 10"	135°21' 05"	20080715	3.0	個人専用 住宅建設
おおにしねいざき 大谷池遺跡 08-3区	おおにしねいざき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町桜が丘	27361	15	34° 24' 10"	135°21' 04"	20080805	3.0	個人専用 住宅建設
なかにしきうちく 中家住宅 周辺遺跡 08-1区	なかにしきうちく 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町五門西	27361	37	34° 23' 48"	135°21' 05"	20080718	3.0	個人専用 住宅建設
くらなしにしき 口無池遺跡 08-1区	くらなしにしき 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町紺屋	27361	31	34° 23' 58"	135°21' 05"	20080804	3.0	個人専用 住宅建設
とうえんじあわ 東円寺跡 08-1区	とうえんじあわ 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町野田	27361	4	34° 23' 46"	135°21' 26"	20080714	8.0	個人専用 住宅建設
とうえんじあわ 東円寺跡 08-2区	とうえんじあわ 大阪府泉南郡 くまとりちょうじゆ 熊取町野田	27361	4	34° 23' 48"	135°21' 25"	20081201	6.0	個人専用 住宅建設

所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大谷池遺跡 07-1区	散布地	古墳～江戸	なし	なし	
中家住宅 周辺遺跡 07-3区	集落跡	中世～江戸	なし	なし	
野田遺跡 07-3区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	

熊取町埋蔵文化財調査報告 第51集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXIII

発行日 平成21年3月

発行・編集 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷 (有)山村印刷
大阪府貝塚市近木1483-8